

Development Centre Studies**The Rise of China and India: What's in it for Africa?***Summary in Japanese**開発センター調査***中国とインドの台頭：アフリカにどのような利点をもたらすのか***日本語要約***概要**

本書は、OECD 加盟国と非加盟国間の非公式政策対話を促進するというより幅広いマンデートを背景に、「政策の整合性と生産的な能力構築」と題する研究活動の一貫として、OECD 開発センターの「2005～2006 年活動プログラム」から生まれたものである。

調査はドイツ開発研究所（ベルリン）、サセックス大学開発研究所と協力して行われている。本書の草稿については、アフリカ開発銀行、国際決済銀行、バーゼル大学、EU エコウォッチャーズ・グループ（アブージャ）、グローバル開発ネットワーク、ナイジェリア国際問題研究所に提出し、有益な意見をいただいた。

世界経済における中国・インド両国の台頭がより顕著になるにつれ、アフリカの経済と政策は様々な点で複雑な影響を受けるだろう。最近の中国・インド両国の過熱気味の成長は持続しない可能性が大きいとしても、両国とアフリカの相互関係は確実に強まっていくはずである。

中国・インド両国は多くの点でアフリカ各国政府の政策立案に関係してくる。両国は、成長モデル、主要なグローバルプライスセッター（金利も含む）、潜在的な市場、ライバル、資金供給者、政策決定要因と考えることができる。政策面での相互関係は、原材料価格の水準とボラティリティ、為替レートの動向と資源配分（脱産業化、垂直統合）、低賃金競争と所得分布、産業化戦略、（中国・インド両国の）投入連関、資本フローの影響（海外直接投資 [FDI]、プロジェクトファイナンス、官民合弁会社など）などの分野でも、広範なレントシーキング行動や民族分布による緊張という文脈でも、妥当性を有しているように思われる。

本書が多くの資料で示しているように、アフリカ経済はアジアの競争力と成長から異なった影響を受けている。国によっては、補完的な効果もあるかもしれ

ない。生産国は自国産品に対するアジアからの需要の恩恵を受けているからである。中国その他の国々は原材料の確保を目指して一部のアフリカ諸国の輸出インフラを整備し、プロジェクトファイナンス、FDI その他の形態による貿易関連の資本フローを提供したいとすら考えているかもしれない。アジア諸国は間接的に投資資源をアフリカ諸国から逸らしているため、利益が相互的なものではなく競争的な場合もあるだろう。結局のところアジアの興隆とそれに対応する南南貿易の短期的なチャンスの方がアフリカ、特に原材料／エネルギー輸出国にとっては経済的コストを上回っているかもしれないが、その一方で重大な長期的リスクもある。これらのリスクは不適切な利益配分につながりかねない脆弱なガバナンス基準と関連したものである。不適切な配分は原材料価格の上昇や、よりよい形で世界貿易の恩恵を共有するために必要とされる非伝統的貿易活動向け投資の阻害要因から生じる。

「アジアドライバー（アジアの牽引役）」である中国とインドの世界経済への統合が勢いを増すにつれ、貧困国の経済と政策は、様々な点で複雑な影響をより顕著に受けるようになってきている。規模の巨大さ、爆発的な成長、天然資源への渴望、経済力と政治力の増大などから、アジアドライバーが世界経済を再編し、ゲームの規則に影響を及ぼすのは必至である。その存在感の高まりは多くの主要な点で過去の関係を変質させ、OECD 諸国の重要な貿易パートナーに対してばかりでなく、開発途上国その他の新興経済国に対しても、競争とチャンスの両方をもたらす可能性が高い。アジアドライバーに対する革新的な政策対応を考え出さなければならないのはこのためである。中国・インド両国の台頭は一時的なものとは思えないだけに、そういった政策対応は長期的に必要とされるだろう。

本書を通じて、OECD 開発センターは、アフリカ諸国／国民にとって中国・インド両国の興隆から生じる恩恵を極大化し、リスクを極小化する政策決定と戦略について情報提供することを目指している。

本書で重点的に取り上げられているのはグローバルマクロ経済、一次産品市場、貿易リンク／政策、中国・インド両国の多国籍企業による FDI、ガバナンス基準である。特に、大半のアフリカ諸国は原材料生産国として、したがってアジアドライバーへの重要な供給国として世界経済とリンクしている点を考慮し、本書はいくつかの一次産品とエネルギーの国際市場での中国・インド両国の役割に焦点を当てている。本書は、

- まず、中国・インド両国の成長パフォーマンスから生じる、アフリカ諸国がもっとも強く世界経済とリンクしている原材料市場への、間接的なグローバルマクロ経済的影響について論じる。
- 起こり得る配分上の帰結（いわゆるオランダ病）を探るため、製品価格の低下、原材料価格の上昇、中国・インド両国のトレンド的な為替レート上昇の結果として生じる交易条件への影響に注目する。
- アフリカ貿易の中国・インド両国へのシフトを跡付け、中国・インド両国が一部の原材料市場で「迂回輸入国」化している現状から生じる政策課題を特定する。

- 中国、インド、アフリカ間の FDI フローのパイプ役としての企業プレーヤーについて詳論し、どうすればアフリカの多国籍企業（基本的に南ア企業であるが）は中国・インド両国における市場機会の恩恵を受けられるのかを分析する。

最終的に、本書は援助国・機関に対してはオランダ病が出た場合にそれを最小限に食い止めるための適切なマクロ政策、セクター多様化戦略、貿易政策勧告（多角的繊維協定の撤廃に伴う特惠侵食にどう対処するかなど）に関する政策上の選択肢について、受入国に対しては FDI の恩恵を極大化・持続化するための最も適切な政策について、情報提供することを目的としている。

中国・インド両国の世界経済への統合はマクロ経済と金融の相互依存関係を一変させ、それが今度是一次産品市場を形成している。

まず、中国・インド両国はその巨大な労働力を世界経済へと急速に統合しているとともに、急ピッチの成長を遂げている。両国を合わせると、世界の GDP 成長率への寄与度は 2001 年以降、毎年 30%前後に達している。しかもこの寄与度は、世界の成長率を一次産品産出国の交易条件を改善する上で極めて重要とされる 4%以上の水準に保つことにも役立っている。金融面では、アジア投資家の需要、特に外貨準備の米国債への還流—アジアの米国債購入—が米国の低金利に寄与しており、それが原材料価格をさらに押し上げている。

したがって、アフリカ—依然として主に原材料輸出を通じて世界経済とつながっている—は、インドの勃興により強化されている中国主導の「スーパーサイクル」の恩恵を受けているのである。

アフリカの輸出の伸びは、中国・インド両国へのその主要な一次産品（原油、産業用金属／貴金属、熱帯産木材、綿花）の輸出の伸びと密接に連動している。アフリカは、原材料価格（中国の純輸入需要による影響力がますます強まっている）と中国・インド両国へのアフリカの貿易依存度の高まりという 2つのチャンネルを通じて、中国・インド両国の一次産品需要とリンクしている。一次産品需要の純増が輸出単価の上昇につながっているほか、都市部の消費者は消費財の値下がり、投資家は資本財の値下がり恩恵を受けているので、アフリカの所得交易条件もアジア興隆の恩恵を受けているはずである。しかし、アフリカの一次産品に対する中国・インド両国のグローバル需要の増加（純輸入）からの恩恵は、景気の変動によるばかりでなく国内生産と輸入の裁定取引にもよる両国の需要のぶれ易さによって弱められている。

さらに、アフリカと中国、アフリカとインドの貿易パターンは非常に異なるにもかかわらず、中国・インド両国の一次産品需要の盛り上がりはアフリカのアジア市場向け輸出の（OECD 諸国からの）大幅なシフトも引き起こしている。中国のアフリカからの輸入は、アフリカが一次産品の生産で比較優位に立っているという一次産品構成上の非常に明確なパターンを示している。対照的に、アフリカのインド向け輸出は中国向け輸出よりはるかに多様化／労働集約型化されている。しかし、アフリカの貿易シフトはいくつかの難点を抱えている可能性がある。第 1 に、この貿易シフトは、アフリカの一次産品生産国による、伝統的な輸出からの多様化の取り組みを妨げるかもしれない。第 2 に、世界の海運能力不足と一

次製品の輸出入業者向け輸送料金の上昇を背景に、船舶は太平洋に集中しており、その結果として、海運料金が押し上げられ、アフリカの競争力が削がれてしまうかもしれないのである。

一次産品産業への依存度の高まりは貧困削減に相反していることが示されている。第3に、資源国における中国・インド両国の存在感の高まりは、国民全体ではなく、資源の利用を左右できるエリートの不当利得を増やしてしまうかもしれない。ただし、中国・インド両国のアフリカにおける存在感が顕著になってきている近年、透明性が悪化しているわけではないという点は指摘しておきたい。

中国・インド両国が現在、10億を超える人々を世界の労働力に統合しつつあるのに伴い、労働集約型の貿易財は競争が激化し、その相対的な価格は低下している。しかし、労働集約型の製造業は他の開発途上地域ほどアフリカでは目立つ存在ではない。都市部の消費者は労働集約型商品の値下がりにより所得の購買力上昇の恩恵を受けている。確かに、こうした分析は伝統的な輸出から多様化する機会、すなわち、現実的な競争ではなく潜在的な競争を無視している。現に、中国・インド両国からの特定の製品の輸入は地元の一部の生産者、特に衣類などの労働集約型産業に打撃を与え、非伝統的産業の成長の芽を摘んでしまい、多様化の見通しを危険にさらしているおそれがある。

脆弱かつ資本集約型でリスクの高い原材料への依存という見通しの暗い窮地に追い込まれるのを避けるため、資源の豊かなアフリカは、一次産品価格の上昇による余得を活かしつつ、労働集約型セクターの振興にも力を入れる必要がある。通貨当局は、輸入品と競合している産業や資源セクター以外の輸出業者が苦しまないよう、実質通貨高に反対しなければならない。中央銀行を支えるため、財政当局はサービスや建設関連の公共支出を抑制して非貿易財の価格上昇を抑え込む必要がある。輸出収入を海外に投資すれば地元経済がオランダ病にかかるリスクはさらに低下する。

しかも、衣料や靴下などのローテク分野では、地理的な問題や特恵関税待遇により一部のアフリカ諸国は競争力を維持できるかもしれないが、中国・インド両国へのFDIの増加によりアフリカへの投資は締め出されてしまう可能性が強い。しかし、正面切った競争が、アジアドライバーがFDIのアフリカへの流入（とアフリカからの流出）に影響を及ぼす主要なチャネルになるとは思えない。第1の、そして最も重要なチャネルは、原油などの天然資源の国際価格の上昇を通じてであり、これがこの広範なセクターへの現在のクロスボーダー投資のブームを下支えしている。さらに、中国・インド両国からのFDIが増えているのは何も石油産業に限られない。最後に重要なこととして、中国・インド両国における南アの多国籍企業の存在感が増していることは注目に値する。中国・インド両国のFDIの動きは一方通行ではないのである。

最後に、本書によれば、結局のところ中国・インド両国の台頭が及ぼす定量化可能な影響は、アフリカにとっておおむねプラスである。だからといって、これらの恩恵は永続するというだけでも、アフリカの経済パフォーマンスが改善する土台になるということでもない。これらの影響はプラスであるが、将来の数多くの政策課題との相互影響—ガバナンス基準、多様化、一部の近代的セクターとその他の経済分野との相互連関、労働力吸収、技能形成—については政策的に注意深く見守る必要がある。

以上を背景に、アフリカの政策当局、援助国・機関、経済界は次の 3 つの軸に沿って適切な政策対応を案出すべきである。

- 第 1 に、アフリカの天然資源の持続可能な利用については改善の余地が大きい。アフリカ諸国の多様化推進はアフリカ大陸の持つ利用可能な天然資源の利用効率化の推進を害するものであってはならない。特にアフリカの相対的な要素条件を考慮すればそうである。
- 第 2 に、これまでアフリカの多様化推進への潜在的方途と見なされてきたセクターで中国・インド両国との競争が激化していることに照らし、アフリカの多様化／貿易戦略について再考すべきである。
- 第 3 に、アフリカ諸国が中国・インド両国との競争激化に適応しやすくなるように、援助国・機関は、特に「援助としての貿易」の領域で、支援を強化すべきである。

© OECD 2005

本要約は OECD の公式翻訳ではありません。

本要約の転載は、OECD の著作権と原書名を明記することを条件に許可されます。

多言語版要約は、英語とフランス語で発表された **OECD** 出版物の抄録を
翻訳したものです。 **OECD** オンラインブックショップから無料で入手できます。
www.oecd.org/bookshop/

お問い合わせは OECD 広報局著作権・翻訳部にお願いいたします。

rights@oecd.org

Fax: +33 (0)1 45 24 94 53

OECD Rights and Translation unit (PAC)
2 rue André-Pascal
75116 Paris
France

Visit our website www.oecd.org/rights/

